

【曼殊院文書】

一四三三

竹内宮御門跡雜掌申加州富墓庄上分參拾貫文執沙汰無沙汰事、次拾貫文引替令倍々過分、以彼公物分引執之事、彼雜掌依敷申之被遂糺明訖。然支狀之趣者、彼庄無本役沙汰、一圓被寄附云々。爰出帶之證文不分明。於門跡者、永正七年御下知至萬松院殿御代、直務以來度々御成敗、先祖禪藝一行、名代小島請文已下炳焉之上者、未納之段太不可然。所詮借錢拾貫文者、任古錢一倍之法可有其沙汰。於未進分者、更可被進濟、并年々恣被拘借爲過怠料、算勘都合之外半分可被出之。更不可有難澁之由被仰出候也。仍執達如件。

永祿五 二月廿八日

(松田) 盛 秀 在判  
(松田) 藤 弘

松梅院

【曼殊院文書】

一四三四

竹内宮御門跡雜掌申加州富墓庄上分參拾貫文事、就松梅院禪興近年無沙汰、被糺明訖。然彼上分未納以下儀、遂算勘速可進濟之段、對禪興被成奉書之條、於自然之儀者可被存知之由、所被仰下也。仍執達如件。

永祿五年二月廿八日

(松田盛秀) 對馬守 在判  
(治部先榮) 大藏丞 在判

本願寺門跡雜掌

【曼殊院文書】

一四三五

加州富墓庄上分參拾貫文、松梅院禪興近年無沙汰付而被遂御糺明、被成公方御下知之者、御門跡於御借錢者、以古錢一倍之御法可被辨賞。於未進分者、被遂算勘可進濟旨、對禪興被成御下知訖。次松梅院數年恣令拘借爲過怠料、相積公用外半分可令執沙汰旨、被成奉書之上者、宜令存知給由候也。仍執達如件。

永祿五 七月十三日

貞 長 在判  
長 高 在判

竹内宮御門跡雜掌

【曼殊院文書】

一四三六

竹内宮御門跡雜掌申賀州富墓庄上分參拾貫文、近年無沙汰付而被遂糺明、被成公方御下知上者、御門跡於御借錢者、以古錢一倍御法、可被辨賞。於未進分者、被遂算勘可進濟。次數年恣令拘借爲過怠料、相積公用外半分可致其沙汰旨、被成御下知之者、此間宜被存知之由候也。仍執達如件。

永祿五七月十五日

貞 長 在判  
長 高 在判

松梅院

【古文書集】

一四三七

昨朝者來談本望候。仍就賀州富墓庄之事、松梅院と公事半候。就其蜷川新右衛門一段無等閑之由候條、可然之様入魂候者可爲喜悅候。若此儀相違候へば失面目式候

永祿五年

間、無別儀様入魂頼入候外無他候。猶治部卿ニ申含候間、可有御演說候。謹言。

(書) 松泉院 まる

(張紙、聖護院通傳) 在判

三月二日。能登守護畠山義綱、笠松但馬守をして、鹿島郡石動山妙日坊に月宛の寄進錢を復せしむ。

【笠松文書】

一四三八

石動山妙日坊御寄進依相違、以來即可再覆、御月宛内五拾疋被付、双方百疋、三月より十二月迄十貫文分、爲定納被仰付候旨、執達如件。

永祿五 三月二日

(并土) 英 教 在判  
(長) 連 理 在判

笠松但馬守殿

(笠松但馬守は、前の笠松新介なること享祿四年十一月七日の條に見えたり。)

四月九日。能登守護畠山義綱、鹿島郡永光寺に、

五九七